

声を出してタゴールの詩を詠もう

発表者：藤嶋会員

協力：広島会員、久保会員

タゴールの詩集『STRAY BIRDS』は、大正5（1916）年の夏初来日した時に三溪園に長期滞在したお礼に三溪に捧げられたものである。その巻頭を飾る「Stray birds of summer come to my window…」というフレーズが、三溪園内の松風閣に小鳥が迷い込んだというハプニングがモチーフになって生まれたことも矢代幸雄によって紹介されている。今年はタゴール初来日100周年でもあったので、試みに詠んでみようと思った。そのためには詩の理解を深めるためにいくつかの手がかりを設けてみた。それが①三溪園、あるいは三溪に関わること、②タゴールの生涯に関わること、③軽井沢での日本女子大学学生に関わること、④岡倉覚三に関わること、⑤時局に関わること、⑥アフォリズム、警句、ユーモアに関わること、である。実際の朗読では、英語での朗読を広島会員の鋭く高い声、日本語での朗読を久保会員の優しい声で立体的な効果が出せたのではないかと思う。（藤嶋）



原三溪・柳津文化の里構想実行委員会創立5周年事業（9/25）に参加して

報告者：野中会員

岐阜市の「メディアコスモス」という市民交流の会場では溢れるばかりの参加者でその関心の高さに驚き、また、参加者の7割以上が三溪園に来園されていることにも感慨を新たにしました。「三溪と横浜」と題しての三溪園加藤園長の講演は開港間もない当時の横浜の様子が話されました。さらには「記念式典」が隣接のホテルで開催され、市の要職者や教育関係者が多数参加されまさに街をあげての高揚感に只々、感激させられました。「記念式典」では原三溪市民研究会の広島会長が原三溪による縁で岐阜との交流状況には深い絆で結ばれつつあるなどの話に参加者の多くが心打たれました。総じて、感じたことは時空を超えてなお、人心一体、和とは何かを多くの人々が求めていることに気づかされた素晴らしい催しであったことを記します。（野中）

